

令和4年度第1回横浜環境活動賞審査委員会 会議録	
日 時	令和4年4月27日(水) 13時30分～16時
開 催 場 所	市庁舎18階共用会議室 みなと5
出 席 者	戸川孝則委員長、石原信也委員、川村久美子委員、鈴木智香子委員、為崎緑委員、吉井肇委員
欠 席 者	北村亘委員
開 催 形 態	公開(傍聴者なし)
議 題	1 応募者審査 2 生物多様性特別賞審査 3 第29回横浜環境活動賞受賞候補者の決定
決 定 事 項	以下の団体が、第29回横浜環境活動賞受賞候補者として決定した。 1 市民の部 ア 大賞 ヨコハマ海洋市民大学 イ 実践賞 海藻おしば協会 神奈川支部 KAZOO 認定特定非営利活動法人神奈川海難救助隊 早渕川ファンクラブ 特定非営利活動法人もあなキッズ自然楽校 特定非営利活動法人わかば 2 企業の部 ア 大賞 株式会社REJ 横浜事業所 イ 実践賞 日産自動車株式会社 テクニカルセンター 3 児童・生徒・学生の部 ア 大賞 神奈川県立瀬谷西高等学校 イ 実践賞 横浜市立富岡中学校 科学部 横浜市立羽沢小学校 Beeぐみプロジェクト 4 生物多様性特別賞 早渕川ファンクラブ
議 事	1 応募者審査 (戸川委員長)ただいまから、議事に入ります。 はじめに、審査委員会の進行について、事務局から説明をお願いし

	<p>ます。</p> <p>(事務局) それでは、本日の審査について、御説明します。</p> <p>委員の皆様には、応募書類および事前質問をもとに事前に審査いただいています。本日、審査委員の皆様による意見交換をふまえて、受賞候補者を決定していただきます。</p> <p>審査は、市民の部、企業の部、児童・生徒・学生の部の順に行います。</p> <p>審査委員の皆様は、意見交換の後、応募者ごとにお手元の事前採点表の点数を必要に応じて赤字で修正してください。点数の変更がない場合は、そのまま結構です。</p> <p>採点表は、各部門の審査終了後に時間をとりますので、その際、御提出をお願いします。</p> <p>Zoomで御参加の委員の皆様は、審査委員会開催前に事務局からお送りしております「採点表の送付について」というメール件名のアドレスに御返信いただく形で御提出をお願いします。</p> <p>審査基準について、先の審査委員会で決定しましたとおり、今回から30点満点中18点以上を実践賞の候補者としてしていますので御留意ください。最高得点の応募者を各部門の大賞候補者とする点は従来どおりで変更ありません。</p> <p>生物多様性特別賞については、事前審査にて各委員から推薦していただいています。推薦のあった応募者について討議し、討議内容を踏まえ、ふさわしいと考えられる応募者を1者、選んでいただきます。</p> <p>事務局からの説明は、以上です。</p> <p>(戸川委員長) 今の説明に対し、審査委員の皆様、何かご質問がありますでしょうか。</p> <p>(各委員) 意見なし</p> <p>(戸川委員長) 本日、北村委員が御欠席ですが、書類による事前審査で採点いただいた点数を北村委員の点数として集計するということがよろしいでしょうか。</p> <p>また、生物多様性特別賞の投票について、集計の結果、同票数獲得となった場合、再投票を行いますが、その場合も欠席委員の事前審査得票数を集計対象とすることよろしいでしょうか。</p> <p>(各委員) 異議なし</p>
	<p>(戸川委員長) 欠席者の事前採点結果は集計対象とします。</p> <p>それでは審査を始めたいと思います。</p>

(1) 市民の部

海藻おしば協会 神奈川支部

<意見交換>

(為崎委員) 全国的な組織ですので、横浜にどれくらい効果があるかを考える必要があると思います。横浜にどれだけ貢献しているかということをごどのようにとらえるかについて、委員皆で検討する必要があると考えています。

(戸川委員長) はい、ありがとうございます。同じ意見の方いらっしゃいますか。以前もインターネットを活用した企業で、横浜に拠点があり、全国的な展開をしていたという応募者の時に一度議論をしたと思いますが、まずは皆様の御意見をいただきたいと思います。

(川村委員) その時の議論ではやはり「横浜環境活動賞」ですので、横浜での活動が活発でなければいけないということだったと思います。活動開始が平成 15 年ということですので、全国とはいえ横浜での活動の活発さですとか意味合いなりがもう少し見える形のほうが良かったと思います。全国で海藻を集めてそれをもとにアートをするということですが、今後は海藻をもとにしたいろいろな調査ということもあるので、注視していきたいと思いますが、もう少し横浜に軸足があったほうが良かったと思っております。

(為崎委員) 横浜での活動の実態があるので、それは良いと思いますが、活動方針が全国の組織で決められているのと、会計も全国の組織になっているので、横浜独自という観点は、やや弱いかなと感じる部分もあります。

ただ、現在横浜で活動が行われているので、それは評価してよいと思いました。講座内容もレクチャーと実技が組み合わさっていて、実際の制作も入っているので非常に誰もが参加しやすいところで、今後の広がり期待も持てるという部分でも評価してもよいのではないかと感じました。

(戸川委員長) おっしゃるとおり、神奈川支部と言っており、横浜を拠点として活動されているので、横浜での活動と考えています。事務局から何かありますか。

(事務局) 要綱上、横浜市での活動には限定していないということと、審査基準のほうで地域への貢献度という項目がありますので、そちらのほうで審査していただければと考えております。

(戸川委員長) ということですので、地域への貢献度という評価項目は低くなってしまいう可能性がありますが、横浜での活動をされているということで審査対象となるということ間違いはないということですね。

(為崎委員) 戸川委員長がつけられた評点の理由をお聞きしてもよろしいでしょうか。

(戸川委員長) 私は意見交換を行ったうえで点数を変更しようという方針です。それでいくと、アートでという点については、質疑応答でお聞きしたかったところではあります。基本的にヒアリングを行ったうえで採点という考え方です。意見交換をして見直さなければと思っています。

(戸川委員長) それでは、採点をお願いします。

(委員) 採点

### KAZOO

#### <意見交換>

(為崎委員) コロナ禍で、横浜を配信拠点として全国とつながるオンラインプログラムがあり、それが継続されるかははっきりしていませんが、横浜を拠点に全国とつながることにはモデル性が認められると思います。一方、先ほどの団体は横浜での活動が継続されていますが、KAZOOさんについて、令和3年度は、横浜での活動の実施がない所が気になった部分です。令和4年度は目指すという話ですが、全国的展開を続けられている中で、令和3年度の横浜での実態がないところが少し気になりました。

ただ一方で、質問に対する御回答で、横浜市民が活動しているところを評価してほしいというコメントもありましたので、横浜市から全国に発信しているところを評価してもよいのかなと思いました。

(川村委員) まだ会員が大勢いるわけではない状況で、よく活動されており起爆力があるという感じがします。横浜と全国をつなぎ、全国で横浜という都市の影響が及ぶというのはモデルとしては面白いと思います。コロナ禍で、オンラインを活用してつながりをつくるというのもあるかもしれませんが、モデル性は面白いと思いました。

今後には期待したいのです。現在はまだお一人での活動ですので、どのように評価しようか考えているところです。

(戸川委員長) ほかの御意見がある方いらっしゃいますか。

ないようですので、採点をお願いします。

(委員) 採点

### 認定特定非営利活動法人神奈川海難救助隊

#### <意見交換>

(石原委員) 浮遊ごみの回収という独自性のある活動であること、加えてボランティアで20年以上継続をされているということで、横浜の海や川をきれいに保っていただいている、このような功績を評価させていただきました。

(為崎委員) 22年間着実に毎月という頻度で活動を継続されているというその積み上げを高く評価しました。もともと海難救助を目的に発足した団体ですが、その役目を終えたときに解散せず、環境の活動に移行して継続していること、単なるごみ拾いではなくそれを分類してそこから環境意識に結び付けていることを評価しました。活動資金の確保という面では、安定性という課題があるように感じました。

(戸川委員長) もともと環境目的ではなかった団体が環境の活動を続けていることはありがたいです。資金面での課題はあるかもしれませんが、活動が広がっていくわけではありませんが、この規模で続けるということが重要なのではないかと感じています。

(戸川委員長) それでは、採点をお願いします。

#### 早渕川ファンクラブ

##### <意見交換>

(為崎委員) 一度受賞されているのですが、そこから世代交代と会員の拡大など、前回の受賞から活動内容を発展させているので、一度受賞した団体がまた再応募してくるときのモデルとなると思いました。今後の目指す方向も非常に明確で、着実に進めていらっしゃるということも、ほかの団体の参考になると思い、評価をしました。

(戸川委員長) それでは、採点をお願いします。

(委員) 採点

#### 特定非営利活動法人もあなキッズ自然楽校

##### <意見交換>

(鈴木委員) こちらの活動は、子どもたちがたくさん関わっていて、とても魅力的だと思います。ただ、学童の事業と別の活動との区別が少しわかりづらいと思うところがありました。

質問をして回答もありましたが、合同で行っているという感じもあります。学童がこのような活動をするのはとても推進できるのではないかと思う面もあり、評価をどのようにしようかと悩むところもありました。

(為崎委員) 全く同じ意見です。毎年テーマを決めて深掘りして知るとい

う、子どもにとっては非常に面白い内容で良いと思います。「地球の日」は学童対象で、「海山 eco」は会員なら参加できるというように、対象が学童と会員に限られているものが大半で、広がりという部分がやや弱いのではないかと思います。一般市民に対してどれだけ開かれているのかが少し課題だと思いました。ですが、活動の内容はとても面白いですし、子どもにとって意味があることだと思います。  
(戸川委員長) それでは、採点をお願いします。

(委員) 採点

#### ヨコハマ海洋市民大学

##### <意見交換>

(石原委員) 資料にある今後の活動方針、目的も「横浜の海に対しひとりでも多く行動できる人」を育成するという、人材育成に一貫した活動を行っています。コロナ禍もオンラインの講座で継続されたり、SNSで告知を行い、幅を広げるという工夫もいろいろされているところを評価しました。

(為崎委員) 活動のポリシーが非常に明確で、質問に対する回答でも、講座は難度を上げず、あくまでも小学校でいうなら1、2年生の講座を意識してということで、入口づくりというところを非常に徹底する姿勢が明確になっています。さらに、着実に効果をあげていて、分科会などほかの活動ができ、入口をつくることで先へつなげるなどうまく活動として循環ができているところを評価しました。複数の大学との連携を持つなど、きちんとした質の維持も意識されていて、本格的な学びを心掛けられているところも評価できます。

一方で、組織基盤や財政基盤にやや脆弱なところがあると感じましたが、財政基盤については、質問への回答で「持ち寄りでお金をかけず行う」ということでしたので理解できました。組織基盤のほうは、実行委員が4名ということなので、活動する方はたくさんいらっしゃる中で、今後、実行委員をどれだけ集めていけるのかという課題は感じました。活動自体は、とても良いものだと思います。

(川村委員) 同じ意見です。質問に対して回答されている項目を見ると、非常に豊かな活動をしていると思いました。単に海洋デザイナーが資格ということではなくて、入口を設けて1～2年は学び、3年生からは自分で動いていただくという形で、その後は自分で発信するなり活動するなりという流れをつくっていることが非常に感心しました。

「入口だけづくり、あとは自分で歩いてください」という面白い発想だと思いました。

	<p>(戸川委員長) それでは採点をお願いします。</p> <p>(委員) 採点</p> <p><u>特定非営利活動法人わかば</u></p> <p>&lt;意見交換&gt;</p> <p>(為崎委員) ハマロードサポーターが、「きりがおか 22 街区緑の会」だったり、様々な団体が複合的にかかわっているので、整理が必要だと思いました。NPO 法人わかばさんの活動としてどこまで評価してよいのか迷いました。</p> <p>一方で、障害者団体と連携されていて、有償で依頼されているところは非常に良いと思いました。有償で作業依頼を行って、一緒に活動されているということにはモデル性があるというところで評価をしました。</p> <p>(川村委員) 活動は今おっしゃられたとおりとても良いと思います。</p> <p>財政上の今後に関して、自治会用会計ソフトによる収益化を目指しているとのことでしたが、今後の見通しや、補助金辞退の点は少し心配かなと思いました。</p> <p>(戸川委員長) それでは採点をお願いします。</p> <p>(委員) 採点</p>
	<p>(2) 企業の部</p> <p><u>株式会社 REJ 横浜事業所</u></p> <p>&lt;意見交換&gt;</p> <p>(石原委員) 職員の皆様、社員教育がしっかりされているという企業であるという印象を持ちながら、職員の方々が業務を行っている中でも常に環境保全の活動を意識しながら、中小企業でありながらもほかの企業の模範となるような環境行動や地域貢献など率先して行っているところが非常に好印象でした。つくっている製品についても、廃棄、リサイクルまでも考えられて環境に配慮したものづくりをしていらっしゃる姿勢も評価しました。</p> <p>(為崎委員) 似たような意見ですが、環境配慮型の製品を作っている部分は評価にかかわる部分ですが、それ以外のところで他にはない突出した要素があるというわけではないものの、基本的なことを非常に地道に 19 年間徹底して行っているという印象を受けました。</p> <p>基本を徹底するというのはなかなか難しいところで、それを地道に</p>

協力会社も巻き込みSDGsの取組をしていることについて、周囲への模範という面で評価をしました。ただ、地域との連携はやや希薄な印象を受けました。

(為崎委員) 戸川委員長の評点の理由を教えてくださいませんか。

(戸川委員長) これというポイントが見つからなかったというのが、私の評点の理由です。基本的なことを地道にやっていくことは大変なことだと思しますので、その点をきちんと評価しなければいけないと気持ちを改めました。細かく分別することは大事なことです、ここから次の一歩がどこにあるのだろうかというのが見えなかったのも、高評価には至らなかった点ではあります。

(川村委員) 企業活動というと、本業と外部への環境教育と社員教育ということだと思いますが、社員教育でフォローアップ研修をしなければいけないのは2%以下となっていますし、SDGsのアンケートをするなど評価できる点だと思います。

これまでは環境配慮型の製品を出しているということでしたが、今後は非常に大事ですので今後をどのような方向でいくのか質問をしたところ、抽象的な回答でしたので、本業でどのようなことをするつもりか、もう少し具体的なことを聞きたかったというのが感想としてはあります。

(為崎委員) 中小企業としてできることと、大企業の事業所ができることをどのように考えるのかということがあるという気がします。やはり中小企業はどうしても環境への取組はハードルが高いと思いがちですが、中小企業も基本的なことを継続することで、環境に貢献できるということを発信していただければという意味でも、今後、ほかの中小企業への波及効果を期待したいと感じました。

(戸川委員長) それでは採点をお願いします。

(委員) 採点

日産自動車株式会社 テクニカルセンター

<意見交換>

(鈴木委員) もう一歩取り組んでいただければ良いと思いました。社員の中でも思いを持った方もいらっしゃるでしょうし、横浜らしい取組というのがあると良いと思いました。

(為崎委員) 電気自動車はこれから重要な課題だと考えられる中で、企業として子どもへの環境教育の取組には次世代のユーザーを取り組むという側面もあるのかもしれませんが、単に電気自動車の面白さではなく、環境の啓発をする内容が組み込まれているのが良いと思いま



	<p>した。気になったことは、受講した子どもたちの日常生活の行動変容にどれぐらいつながっているのかということです。</p> <p>(戸川委員長) 子どもたちも地球温暖化の問題や SDGs というのは学校でも学んでいます。企業からの発信がしっかりしたものでなければ、違うものになるかなという気もします。逆に言うと、このような場で企業がしっかりと発信していただければ次の学びにつながっていくと感じました。企業も子どもたちへの環境啓発のハードルがあがっていくのではないかと考えています。</p> <p>(戸川委員長) それでは採点をお願いします。</p> <p>(委員) 採点</p>
	<p>(3) 児童・生徒・学生の部</p> <p><u>神奈川県立瀬谷西高等学校</u></p> <p>&lt;意見交換&gt;</p> <p>(為崎委員) この学校は2年後には完校となるということで、それをどうとらえるかというところの整理が必要と感じています。完校が決まっているので、表彰しても「瀬谷西高等学校」という名前はなくなります。将来的に統合する学校に活動の継続を目指していくとはされていますが、現在の実績を評価しても、表彰対象とした学校名がなくなることで、また必ず継続されるというところまでには至っていない部分で、そこをどのように評価するのか確認の必要があるのではないかと考えています。</p> <p>(戸川委員長) 具体的に言うと、将来性ということでしょうか。</p> <p>(為崎委員) そうですね。表彰された学校として記録され、ずっと名前が残っていきますが、2年後には実際の学校はなくなってしまいます。しかし、今まで取り組んできた実績を高く評価するということでよいか、委員の皆さんの考え方の整理が必要かと感じました。</p> <p>(戸川委員長) 2年後に完校予定の応募者について、審査委員としてどう考えるかを意見交換したいと思います。</p> <p>(鈴木委員) 記念ということでは違うかもしれませんが、ここでしっかり賞をとって名前を残して、再編統合する瀬谷高校にこのようなことが引き継がれていくことも、この賞の価値になると思いました。完校ではあるけれども、その思いなども引き継がれると良いと思いました。</p> <p>(川村委員) 私も同様の心配がありましたので、今後どのように引き継がれるか質問しました。その御回答の中に、教育界では地域課題を解決</p>

に取り組む「地域科」の創設が検討されていて、この取組を「都市型の地域科」として新校で引き継いでいきたいと回答されていました。実現すればそれはそれで面白いことになるのかもしれないと思います。ここで受賞すること自体が起爆剤の一部になれば良いという気がします。

(石原委員) 完校するというのですが、これまで彼らが行ったプロジェクトの経験が、完校後、卒業後も、瀬谷区で開催が予定されている国際園芸博覧会や、地域へ貢献するというにつながればと思い、エールを込めて評価しました。

(戸川委員長) 今までの活動がしっかり評価されることが重要と思っています。できることでしたら、この成果をもって次につなげてほしい思いはあります。まずは、この時点で存在している組織できちんとした評価をするべきだと考えています。

(為崎委員) 委員の皆さんが同じ方向で考えられていることがわかりました。今の実績で評価をするということによいと思います。続けて、高く評価した部分についてお話しします。現在の取組は素晴らしいと思います。300名で16のプロジェクトを進めており、もともと生徒主導で立ち上げられて、現在も16のSDGsの取組を行うなど、非常に広がりがあり、素晴らしいと思います。また海軍道路の清掃は地域と連携して長年取り組まれており、その実績も高く評価できるものです。

(戸川委員長) それでは採点をお願いします。

(委員) 採点

#### 横浜市立富岡中学校 科学部

##### <意見交換>

(鈴木委員) 科学部の部活動というのは、どこの中学でも同様のことを行っているのか、ほかの部活動と異なる取組をしているのか、プレゼンテーションがないのでその点がわからないのが残念だと思いました。どこの中学校でも科学部が今回のように応募してくれてくれるようになれば、それはそれで面白いかと思います。ほかの科学部との比較がないので、評価に悩みました。今回、プレゼンテーションがないのが残念です。

(戸川委員長) 科学部なら、一般的にこの程度は活動しているだろうということでしょうか。

(鈴木委員) そうです。

(為崎委員) 私もほかの学校の科学部がどの程度の活動をしているのか情報はありますが、専門家の助言を受けてしっかり調査を継続されて

いるのは評価できる部分だと思いました。自分たちのレベルでとどめるのではなく、専門家の方の助言を受けつつしっかりと調査を継続されています。

ただ、ほかの委員の方から「ただの調査研究ではなくその一步先を目指したい」とコメントがあったように、調査から実際の行動や全校生徒の意識の変容へつなげるとか、調査の結果何が変えられて、何が変わっていくかというところは、これから目指すところで、課題という感じがしました。

(戸川委員長) 中学校の科学部の活動は難しいと思います。単年度になってしまうでしょうから、それが続いていくということが重要で、しっかりと外部とのコミュニケーションとりながら活動しているのはモデル的というか先駆的な取組かなと私は感じました。

いろいろな学校で活動してもらい、このような応募がどんどん出てくると、様々な取組を世の中に知ってもらえることができるので、そのような意味でもこのような応募があることがありがたいと感じています。

(戸川委員長) それでは採点をお願いします。

#### 横浜市立羽沢小学校

##### <意見交換>

(戸川委員長) ESD で有名な学校です。まだ受賞されていなかったのが意外でした。

(川村委員) 非常に評価できるのは、環境教育の仕方です。環境教育の成果をいかに可視化して、段階的にいいものにしていく。どんな環境教育を受けたかというのを可視化して、次につなげていくモデルとしてきちんとしていることは感心しました。

(為崎委員) 小学校ということを考えると当然というか仕方がないことだと思いますが、どうしても教育指導的であるように感じてしまいます。可視化するというのはとても良いことだと思いますが、そこにも教育指導的な、広げなくてはいけないということがあるように感じました。児童自身の側に向き・不向きがあるように感じ、児童による差への対応について質問もしましたが、フォローしますという御回答でした。教師の教育の視点と、児童の成果・実践をどのようにバランスをとっていくかというところで、少し迷いました。小学校ですので、ある程度教師が誘導するのはしかたないことなのかもしれません。

一方で良いと思ったのは、地域性をふまえて地域に根付いた活動を続けていることや、各テーマで専門家と連携されていてしっかりと取り組まれているという点で、地域性や質の高い活動というところで評

価値はできると思えました。  
(戸川委員長) それでは採点をお願いします。

(委員) 採点

#### Bee ぐみプロジェクト

##### <意見交換>

(為崎委員) もともと小学校で始めたものを引き継いで活動しており、活動メンバーは学生主体で事務局に大人がいるという回答がありましたが、そこが分かりにくいと感じています。学生の取組を大人が支えているのか、大人が組織した団体に学生が活動しているのかで判断が異なってくると思っています。純粋な学生の取組として評価をしてよいのか少し迷いました。そのあたりの考え方を整理したほうがよいかと思えました。

(戸川委員長) おそらく、新しいスタイルとして今回のようなケースが出てくるのだと思います。学校発だった活動が、地域の大人が関与して継続的なマネジメントになっていくというのは形としては悪くないと思います。これが児童・生徒・学生の部で評価すべきかということで御意見をいただいてもよろしいでしょうか。

(川村委員) 大岡小学校のつながりも切れてしまっているということで、そこで育った学生が母体になっているだけのことです。「つながりはありません」という御回答でしたので、どのように解釈したらいいのかと思えました。

(鈴木委員) 私も同じ意見です。児童・生徒・学生の部にこの団体が御応募してきたのはどうしてなのかと思えましたので、事務局に教えていただきたいです。私も養蜂の経験があり、養蜂は本当に大変ですので、収支を見ても専門家の費用がかかっている。学校の中では確かにできないと考えているので、児童・生徒・学生の部の理由を教えてくださいたいと思います。

(事務局) 要綱上、候補者の資格として、「児童・生徒・学生を中心とする活動」とあるため、児童・生徒・学生の部での御応募としております。

(戸川委員長) 活動するメンバーが高校生だから、ということでしょうか。

(事務局) はい。

(戸川委員長) 要綱のとおりだと思いますが、今回のケースは、どこに焦点をあててエントリーするかというところがポイントになると思います。

代表者が自社の活動として応募すれば、企業の活動になるのではしよ

	<p>うが、少なくとも今回のメンバーというのは、構成員はすべて学生です。ですので、学生の活動ということで審査を行うというように私としては受け止め、評価をさせていただきました。</p> <p>この活動は良いのではと思います。企業が環境活動をする学生を応援するというポジションも良いと思います。環境活動推進のための下支えになるとすれば、それはそれで評価すべきなのではないかと思いつつながら、皆さんと同じような迷いはありつつも評価をさせていただきました。これは、委員長としてではなく、一人の委員として意見を述べさせていただきました。「学校での取組は学校内だけ」というよりは、わくわくする気がします。</p> <p>(為崎委員) 少し気になったのが、代表者が企業の方になっていることです。</p> <p>学生主体であれば、あくまでも大人は下支えで、学生が代表者でいいのではないかと感じました。なぜ企業の方が代表者なのかが気になるところです。</p> <p>ただ、質問で、「企画段階から学生たちが関わっているのですか」と聞いたところ、企画から関わっているということで、実施している内容は学生主導で企画から販売まで一貫して行っているということは確認できました。事務局という位置付けの判断に迷いました。環境意識の啓発という以上に、まちづくり、コミュニティの形成といった要素を感じ、面白いと思いました。今までも同様にまちづくり要素の強い応募内容もありましたが、まちづくりの中に環境保全に寄与する活動があれば良いとのことでしたので、同様に評価をしました。</p> <p>(戸川委員長) 主体の活動は学生ということで審査を行うことでよろしいでしょうか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>(戸川委員長) それでは採点をお願いします。</p> <p>(委員) 採点</p>
	<p>2 生物多様性特別賞審査</p> <p>(戸川委員長) 続いて、生物多様性特別賞について審査に入ります。事前審査の結果について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 事前審査で生物多様性特別賞への推薦があった応募者は、「早淵川ファンクラブ」様、「横浜市立富岡中学校 科学部」様、「海藻おしぼり協会 神奈川支部」様となっております。そのほか「該当なし」となっております。御討議、そして御審査をお願いいたします。</p> <p>&lt;意見交換&gt;</p>

(戸川委員長) それでは、審査に入りたいと思います。まずは推薦された委員の方から御意見を頂戴できればと思います。

(川村委員) 該当なしにしようか悩みましたが、早渕川ファンクラブを推薦しました。

2019年の工事で生態系が破壊されて、トンボもいなくなってしまうと応募書類に書かれていたのですが、それは、市民活動を長期間継続してきて、生態系保全に寄与してきたからこそ、行政の大規模工事が入ってしまった時に環境への影響がどのように及ぶのかということに関して、データとして把握できたのだと思います。それまで努力してきたことで、いったいどのような成果が上がったのか、工事の結果何が起きたのかを市民が考察するというのもありなのかと思いました。そこで、これまでの頑張りに対して、生物多様性特別賞を付与するというのを考えました。

よくある行政と環境活動家のぶつかり合いとしてこのようなことが起こることがあります。成果として表れなくとも、データを残していく活動に可能性を感じて、行政へ有益な提言を行い、くじけずに続けておられます。横浜市内でそうしたことが起きているのであれば、生物多様性特別賞としてふさわしいのではないかと思います、該当なしとするかどうか迷った末に推薦しました。

(鈴木委員) 活動が長期間にわたって継続しているということと、コロナ禍において野外の活動に人が集まってきていることをうまく活用してとらえていると思いました。川村委員と同じく、一度壊れてしまったものを作り直していくという思いもあって、今回応募されてきていると思います。そこを応援する意味もありますし、全体の応募者の中でも生物多様性を語れるのはこの団体かなと思いましたので推薦しました。

(石原委員) 該当なしとするか悩みました。

富岡中学校科学部の皆さんがビオトープの改修で地元の企業や団体、行政の支援を受けながら一生懸命頑張っているということをふまえて、確かに成果はこれからなのかなという面があり今後の調査結果に期待が持てると書きました。しかし、早渕川ファンクラブ様のこれまでの実績が非常に素晴らしいと思いますので、今後に期待するという方向よりは、これまでの実績を評価すべきかと思いました。

(吉井委員) 生物多様性の活動としては海藻おしば協会さんが興味深いとも思いましたが、生物多様性特別賞としては該当なしかと思いました。

(為崎委員) 該当なしとさせていただきます。対象になりそうな応募者はいらっしやいましたが、それぞれ課題がありそうなことから、該当

	<p>なしとしました。</p> <p>ただ、今回も生物多様性特別賞を応募者の皆さんは余り意識をされていらっしやらないけれど、そこを強く啓発していかなければならないということを考えたときに該当なしとするのがいいのか、それとも期待をこめて、今後の皆さんの生物多様性の啓発に結び付く活動を表彰するのがいいのか迷ったことです。委員の皆さんの御意見を聞き、改めてもう一度自分の意見を見直したいと思います。</p> <p>(戸川委員長) 該当なしとさせていただいたのですが、早渕川ファンクラブの方は、とても一生懸命新しい取組を追加して再度応募してきているという組織のマネジメントとしては素晴らしいと思います。生物多様性特別賞の内容なのかというところで少し悩みました。生物多様性特別賞に対して、我々が何も評価できなくなってしまうことでよいのかという問題が悩ましいです。一考しながら改めて投票したいと考えています。</p> <p>(委員) 投票</p>
	<p>3 第29回横浜環境活動賞受賞候補者の決定</p> <p>(戸川委員長) 受賞候補者の決定を行います。はじめに、市民の部について、事務局から集計結果を報告してください。</p> <p>(事務局) 市民の部の結果は御覧のとおりです。受賞候補者について御審査をお願いします。</p> <p>(戸川委員長) 審査基準に基づき、7団体とも18点以上ですので、実践賞の候補として承認するというところでよろしいでしょうか。</p> <p>(委員) 異議なし</p> <p>(戸川委員長) 次に、大賞候補です。審査基準により、点数が一番高い者が大賞候補となりますので、最高得点の「ヨコハマ海洋市民大学」様を市民の部の大賞候補とします。御意見ありましたらお願いします。</p> <p>(委員) 異議なし</p> <p>(戸川委員長) 続いて企業の部の結果をお願いします。</p> <p>(事務局) 企業の部の結果は御覧のとおりです。受賞候補者について御審査をお願いします。</p> <p>(戸川委員長) 18点以上の2団体について、実践賞の候補として承認するというところでよろしいでしょうか。</p> <p>(委員) 異議なし</p> <p>(戸川委員長) 次に、大賞候補です。審査基準により、点数が一番高い者が大賞候補となりますので、最高得点の「株式会社REJ横浜事業所」</p>

様を企業の部の大賞候補とします。御意見ありましたらお願いします。

(為崎委員) 最高得点を大賞とするのか、大賞なしとするのか少し迷うのですが、例年事業所の特性をいかして受賞されているところが多かったように思います。先ほど意見交換の中でも出ましたが、いろいろ基本的なことを徹底していますが、事業所ならではの特性がやや見えにくいというところがあり、そのあたりをどう考えるのかとは思いました。最高得点を大賞とした場合には、受賞理由をしっかりと伝える必要があると思いました。

(戸川委員長) 受賞者への講評は、表彰式の際に私からお伝えしています。今回の場合は、キラリと光る取組が見出しにくかったというのがありますが、しっかりと間違いなく確実に今やれることを一歩ずつやっているのが実は一番重要なのではないかというような話を、委員の皆さんがよろしければ、表彰式の講評の際に私からお話させていただこうと思います。それでいかがでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) では、あらためて「株式会社 REJ 横浜事業所」様を企業の部の大賞候補とすることでよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 続いて、児童・生徒・学生の部の結果をお願いします。

(事務局) 児童・生徒・学生の部の結果は御覧のとおりです。受賞候補者について御審査をお願いします。

(戸川委員長) 審査基準に基づき、4団体とも18点以上ですので、実践賞の候補として承認するというところでよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 次に、大賞候補です。審査基準により、点数が一番高い者が大賞候補となりますので、最高得点の「神奈川県立瀬谷西高等学校」様を大賞候補とします。御意見がありましたらお願いします。

(川村委員) 受賞にあたってのコメントとして、「新しい学校に引き継いでください」ということは、強調しておいたほうがよろしいのではないのでしょうか。

(戸川委員長) 表彰式の講評の際に、私からお伝えするようにいたします。では、大賞候補者としてよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 続いて、生物多様性特別賞の投票結果の報告をお願いします。

(事務局) 「早渕川ファンクラブ」様が6票、「海藻おしば協会」様が1票



	<p>となります。候補者について討議をお願いします。</p> <p>(戸川委員長) 意見交換の結果、最終投票結果はこのようになりました。生物多様性特別賞の候補は、「早渕川ファンクラブ」様となりました。御意見がありましたらお願いします。</p> <p>(為崎委員) 最終投票をお戻しするときにコメントを書いたのですが、やはりこの受賞理由も委員長が慎重に講評されるほうがよいかと思いました。推薦された委員から出された意見で、一度生態系は破壊されたけれどもそこからまた持続してということなど、受賞理由を委員長からコメントいただきたいと思いました。</p> <p>(戸川委員長) 皆様の討議の結果をしっかりとお伝えしたいと思いますので、生物多様性の活動というところに着目してコメントしたいと思います。では、生物多様性特別賞の候補は、「早渕川ファンクラブ」様とすることでいかがでしょうか。</p> <p>(委員) 異議なし</p> <p>(戸川委員長) これですべての審査を終了しました。何か御意見があればお願いします。ないようですので、以上で議事を終了します。事務局に戻します。</p>
	<p>(事務局) 本日の会議録については、公表となります。後日、御確認をいただきますので、よろしく願いいたします。また、受賞者の皆様の応募書類につきましては、募集概要に記載しておりましたとおり、規約・定款、役員名簿、収支書類及び個人情報を除いて、ホームページに掲載させていただきます。続いて、今後の予定について委員の皆様にお伝えします。お配りしました「第29回横浜環境活動賞今後の予定」をご覧ください。本日の審査委員会の審査をふまえ、市長が受賞者を決定します。受賞の決定については、5月中に応募者の皆様には、御連絡させていただきますとともに、その後、記者発表を行い、すべての受賞者を公表いたします。表彰式は6月に開催を予定しています。詳細については、別途、御連絡させていただきます。よろしく願いいたします。事務連絡は、以上です。</p> <p>以上をもちまして、第29回横浜環境活動賞審査委員会を閉会いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>	<p>1 次第</p> <p>2 資料1 横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿</p> <p>3 資料2 横浜環境活動賞実施要綱</p> <p>4 資料3 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱</p> <p>5 資料4 審査基準 (市民の部/企業の部/児童・生徒・学生の部/特</p>

	<p>別賞)</p> <p>6 資料5 応募者一覧 (五十音順)</p> <p>7 資料6 (参考資料) これまでの受賞者一覧</p> <p>8 資料7 今後の予定</p>
そ の 他	<p>横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱第4条により、以下の項目については環境活動賞審査委員会委員長の決定により非公開とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報に係る発言</li> <li>・事前採点表、採点表</li> <li>・他団体の集計結果</li> </ul>